ともに励まん



２０１９，１，３１（木）
北海道旭川永嶺（えいりょう）高等学校２年次だより　第４１号（通巻 86 号）

古典を学ぶ　古典に学ぶ

『ヘタな人生論より徒然草』という本があります。予備校のスーパー講師として名を馳せたマドンナこと、荻野文子さんの著作です。こうした、現代人の生き方と結びつけた古典入門書はたくさん出ています。

みなさんは、「古典を学ぶ」ということをしていると思いますが、ぜひ「古典に学ぶ」という学び方があることを知ってほしいと思います。学校の教科書というのは、掲載される教材に制約があります。もっと面白い話が山ほどあるのに、どうしても居住まい（いずまい）を正して裃（かみしも）を着たような教材しか載っていません。そこで、在野の人が著したこうした古典紹介本が役に立つのです。＊映画「君の名は」と同じ男女入れ替わりの物語はすでに平安時代に成立しているし、ことしのセンター試験の古文もおもしろかったね。

古代人はこうした考え方だったか、こんな生活をしていたか、なんだ、現代人と同じ悩みを持っていたのか、などなど、実に面白いものです。訳本でかまいません。どんどん古典に親しんでほしいものと思います。

最近「日本ってすばらしい」みたいなテレビ番組が多いですけれど、その逆を考えてみたときに、日本は西洋諸国に比べて、自国の古典教育がお粗末なように思います。諸外国の中には小学生の頃から古典に触れさせ、暗誦させる教育をしている国はたくさんあります。わが国には、世界に誇れる数多くの古典があるのに、せいぜい高校で受験に出るから仕方なく、面倒で難しげな勉強を強いられていて、とても自国の古典として将来誇れるような感覚など持てないような苦行、といった感じではないでしょうか？ その責任の一端は感じます。



娘の誕生日でもある･･･

いまから10年前、紫式部の『源氏物語』執筆から1,000年という年に、11月1日を「古典の日」と制定する動きがあり、その後2012年に「**古典の日に関する法律**」が公布・施行されました。ここにいう**古典とは、文学ばかりではなく、外国で創造され、日本で受け継がれたもの、たとえば漢文、囲碁、クラシック音楽、武道、茶道、華道、書道なども含む**といい、時代としては**明治期の作品も含む**のだそうです。

話を戻して、古典の文学作品にダイレクトに迫るのはやや難しいものがありますが、現代語訳も多数出ていますし、冒頭に紹介したような、古典入門書、古典ガイダンスブックみたいなものもたくさんあります。漫画化された古典も多数存在します。私は高校時代、受験勉強としての古文の文法の勉強で古文がいやになっちゃったクチですが、「食わず嫌い」だったかなと、いま思います。

『枕草子』には、「**にくきもの**」という章段があって、清少納言はヒステリックなまでに。これでもかというほど「にくたらしいもの」を挙げ連ねています。ははは、こりゃおもしろいわ、という感じです。

「開けて出で入る所、立てぬ人、いと憎し」と言っています。開けた戸を開けっ放しにする人が憎たらしい、と。やたらと大きなくしゃみをする人も憎たらしいと言っている。これらはいまでも共感できるでしょう。ぎしぎしと大きな音を立てる牛車に乗って歩く人も憎いらしい。今風に言うなら、マフラーを改造して大音響を立てて走る車に乗る人かなあ。そういえば、靴をズガーズガーってひこずって歩く人いますよね。あんなのも、清少納言が生きていたら「いとにくし」って言っただろうか。よく街中やショッピングモール内なんかで、せっかく高そうな靴を履いてるのに、ズゴー、ズガーってひこずって歩いている人がいますよね。かっこわるいですよねえ。本屋とか病院の中なんていう、静かにしてもらいたいところでは迷惑とさえ言える。学校で言えば、授業が終わるや否や、でっかいボリュームで鳴り響く呼び出しの放送、あれも時に「**ええい、やかましい！**」と思うこともありますが、これ以上言うと人間関係悪くしますからこの辺で。

清少納言ははたして、宮中で嫌われなかったんでしょうか？気になるところです。

あすから「如月」

あすから「如月」。きさらぎ、と読みます。

語源は「衣更着」、**寒さが厳しく、重ね着をする意**という。大修館の『明鏡国語辞典』、三省堂の『新明解国語辞典』にはこうした解釈が載っていますが、なんと岩波の『広辞苑』には、「生更ぎ」の意で、草木の更生することであって、**着物をさらに重ね着るとするのは誤り！**って、はっきり書いてあるのである。こんなに真逆の解説が載っているのも珍しい。『広辞苑』の編集者にはきっと揺るぎない自信があるのでしょう。冬休みに、電子辞書を新しくしました。昨年出た『広辞苑第７版』も搭載、さらに前の辞書より国語辞典が２種類多く入っていて、引き比べが実に楽しい！



こちらは如月ハニー



閑話休題。大寒も過ぎ、暦はまもなく節分（３日）、立春（４日）を迎えますが、道内では冬祭りたけなわのこの時期が１年のうちでも最も寒い時期です。

寒さ自慢なら旭川っ子は負けないでしょうが、オホーツク海には**流氷**という強敵もいます。道産子なら一度は流氷を見ておいてほしいものと思います。かく言うボクも、大学卒業まで、道内では網走周辺にだけは行ったことがなくて、教員に採用されるとき道教委の本庁で、「とてもいいところですよ」なんて、さも観光地を勧めるかのように赴任地を推奨されたのですが、確かに広々とした大地や湖沼、雄大な景観にあまたの温泉、とりわけ冬の流氷は圧巻でした。海岸線に流氷が押し寄せる夜中なんかには「ギィー、ギィー」っていう音が聞こえ、急にガクンと気温が下がるんです。ああ、流氷が接岸したなってわかる。その後、どんどん氷塊が岸に押し寄せられ、どんどん重なって大型ダンプよりも大きいくらいのものすごい氷の山ができるんだけれど、それがまた、たくましくも美しい造形なんです。ぜひ、北海道人として一度は流氷を体験してもらいたい、と２月を迎えて思った次第。



北海道はやっぱり広い！まずは足下の道内をあちこち見ておきたいものです。グローバル時代だ、インバウンドを英語でお迎えしようというかけ声も盛んだが、なんと言ってもまず我々自身が道内のこと、日本のことを知らなきゃね。外国人旅行客の方がよく知っているなんてことも、いまや珍しくないのかも知れないからね。

ただ、この時期、人の集まるたとえばさっぽろ雪祭りなんかでは、インフルエンザ大拡散の懼れなしとしません。気をつけましょう。

来週末には４連休

来週末には３連休プラス推薦入試による家庭学習日があり、４連休となります。が、２月２１日からは学年末考査があります。最後の定期考査。成績アップのラストチャンスです。いまからガッチリ勉強していきましょう。

３年生は「家庭学習期間」に入りました。あとは卒業式と予行の日しか来ません。１年後ですね！

☆☆☆　来週の行事と時間割　☆☆☆

２月		行　事　等 ①②は、１校時２校時をあらわします		★時間割を確認しよう ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
4	月	会議につき講習なし	6 時間							
5	火	スキー（1234 組）　講習④英語	6 時間							
6	水	スキー（567 組）	6 時間							
7	木	講習⑤（最終日）国語	6 時間							
8	金	推薦入試会場設営　15：00 完全下校 ［12（火）は推薦入試で休業、自宅学習］	5 時間							

４連休だ！　学年末考査に向け、成績アップを図ろう

（文責　伊丸岡）